

令和4年度 第1回 麻績村総合教育会議 議事録

1. 日時 令和4年5月17日(火) 午前10時00分から午前11時00分

2. 場所 麻績村地域交流センター第3・4研修室

3. 出席者

(構成員)

麻績村長	塚原 勝幸
教育委員会	
教育長	加瀬 浩明
教育長職務代理者	市ノ瀬 淳一
委員	小山 正文
委員	宮下 温子
委員	小松 小百合

(構成員以外の出席者)

事務局職員 1名

傍聴者 0名

(会議開会 午前10時00分)

1. 開会

○加瀬教育長

それでは皆様おはようございます。大変お忙しい中、本日はお集まりいただきましてありがとうございます。本年度第1回の総合教育会議ということで、総合教育会議に関しましては皆様ご承知の通りそれぞれの市町村の首長さんが招集をする会議ということで、本日は塚原村長様の招集で我々教育委員のほうと、簡単に言うと懇談をしながら今後の方向を考えていくという会であります。それでは進行を私のほうで進めさせていただきますが、着座にて失礼いたします。よろしくお願いいたします。

ご承知の通り本年度は村の令和5年からの麻績村の第7次振興計画を策定する年になる。それに合わせて教育振興計画、教育大綱も決めていくことになる。

振興計画については、今後10年間の計画となる。皆さんに考えをまとめていただきながら、今年度1年かけて方向を見出していく。

本日の総合教育会議では、麻績村の今後10年の見通し、村長の考えや思いを聞かせていただく中で、今後の教育の施策に活かしていく。

今後大綱の策定にあたっては、大綱は基本的には村長が策定するが、教育委員会で原案を考えながら1年間かけて作るスタートとして、本日の総合教育会議を位置付けている。

先だって、現在の小学校、中学校等の状況を私から説明させていただく。

【近況】

昨日、中学校で小中学校の合同職員会が開催された。麻績だけでなく、北部地域6校での連携をお願いしている。学校規模としては各学年に2、3クラスあるのが適正であるが、学校統合してもクラスは増えないため、現状は「学校が3つある」という考え方ではなく「学級が3つある」という考え方で、先生方に連携していただいて実際に学年会や教科会をやっていただきたい。それをすることにより先生方に力が付き、子どもたちへの指導がより良くなる。今後麻績・筑北・生坂の6校が集まるようなことを計画したい。校長たちは動き出してくれている。

学校に出向いて授業を見させていただいているが、学校ではコロナ対策が大変徹底されている。食事は一方向を向いて黙食、間隔を空けている。手洗い消毒をしっかりとやっている。保育園も丁寧にやっている。

【学習の状況】

小中学校の学習面はICTの活用が進んでいる。授業を大分工夫して進めているが、今後は先生方のスキルを上げていくことが大切。学校で各学年クラス1つ、教科の先生も単独だと自分だけで悩んでしまうので、他学校の同学年と相談し、村にとらわれずに質向上をお願いした。先生方は一生懸命取り組んでいるので、徐々に先生方のスキルは向上すると思われる。

子どもたちはのびのびと、授業の中で良く発言し、集中してやっている。1番は子どもたちの学びを導くということで、先生方の指導力向上が重要。次に、本村は保小中一貫教育ということを出しているのも、「学びを繋ぐ」ということで、それぞれの連結しなければいけない学年等に関して、特に校種間連携をしっかりやっていただきたい。小学校、中学校であれば小学校6年生と中学校1年生。そのため、学年会や教科会を連学年でも良いので積極的にやっていただきたいとお願した。

最終的には「自立した18歳」を目指すことになるので、0歳から18歳までのそれぞれの段階でやるべきことを大綱に盛り込んでいくことを検討していく。

2. あいさつ

○塚原村長

皆さん改めましておはようございます。春の田植え等農作業が始まりまして、水面に映る新緑が大変美しい時期となりましたが、教育委員の皆様方に置かれましては何かと大変お忙しい中今日は総合教育会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。また、常日頃につきましては、それぞれ子どもたちの教育の振興に向けてご尽力いただいておりますことにも感謝を申し上げるところでございます。新型コロナウイルス感染症につきましても大変地域経済、地域コミュニティ等衰退を招いている訳でございますし、また保育園、小中学校等の学校行事においても規模縮小になったり中止になったりということですね、一番悲しんでいるのは子どもたちではないかと思うところでございます。そんな中で一日も早く元の生活に戻ればと願っているところでございます。

3. 協議内容

- (1) 今後の教育について
- (2) 麻績村教育大綱について
- (3) 第7次 麻績村振興計画に向けて

○塚原村長

昨日長野県知事との懇談があった。「しあわせ信州創造プラン2.0」という県の総合5か年計画を考える上で各市町村首長と懇談するという事で開催された。麻績村においても、麻績村振興計画は今年度に、来年度からの10年間分を策定する。教育委員の皆様方におかれましては、教育行政について色々な面でご指導、ご意見いただければと思う。

教育環境の施設の充実等については、保小中とも空調整備が概ね済んでいる。今年は中学校の特別教室の空調整備を予定する。中学校は「学習センター」という大きな部分の空調整備をどうするかということがあるが、仮に空調整備するとなると費用が高額になることが懸念される。昼食を取っている講堂等については空調整備が済んでいる。

学力向上に向けたICT教育、GIGAスクール等については、一人ひとりへのタブレット端末の設置が済んでいる(1人1台端末環境)。あわせて電子黒板、電子書籍等の購入について、先生方が適時適切に購入して教育に用いていただいている。先生方のスキルによって取り扱いが変わってくると思うが、先生方は一生懸命取り組んでいただいているので、先生方のスキル向上は子どもたちに伝わってくると思う。

教職員の配置について、村費職員を雇う中で教育環境の充実に結び付けたいが、講師の確保については難しい現状がある。しかし先生方も揃ってきており、北部学びの教室等も設置されており、教育環境の充実については図れる中で図れていると思う。

子どもたちの社会教育の時間について、学校教育においては「総合の時間」ということで一緒くたになっているが、なかなか麻績の自然の中で子どもたちが一生懸命走るとかそういうことがされていない。学校においても春秋の遠足等も中止になって、昨今は聖高原のゴミ拾いで高原に行くのみである。子どもたちが外に出て自然と遊ぶことがないので、私としては大変寂しい思いをしている。やはりこれは、子どもたちが外で遊ぶということに対して親御さんが危険だと心配しているので、どうしても家の中でパソコンやゲームをして過ごすということに集中してしまうというのが昨今の事情ではないかと思う。自然豊かな中で思いっきり遊んで、感性を磨き豊かな人間性を育むということが重要だと思う。このようになかなか難しい状況であるので、「おみっこ元気クラブ」等の活動には期待している。新型コロナウイルス感染症の影響があるかもしれないが、計画通りに開催できることを期待する。皆様にも何かの機会に色々な面でご支援いただきたいと思う。

急速に変化する社会情勢の中で、子どもたちには生きていく力を確実に身に付けてもらいたい。そのために教育としてどうしていくかとしては、基本的な部分はしっかり身に付けていただき、自ら学び自ら考え、主体的に判断、行動し、より良く問題を解決する資質

や能力を養えるようにしたい。また、他人と共に協働して、他人を思いやる心や感動する心など豊かな人間性を育て、遅く生きるための健康や体力もあわせて、生きる力の重要性を育成していただきたい。心の強い子どもたちの育成に取り組んでいただきたい。

全国的な少子高齢化の中、小規模な学校ゆへの利点を活かし、個を大切に教育をしていきたい。近隣学校と情報共有し協調を図り、子どもたちの育成に努めていただきたい。誇れる保小中一貫の教育体制を確立していきたい。

学校統合については、地域の中で一体になっても学級は増えず先生方の負担が増える。両村とも学校統合の必要があると感じられる時までには、それぞれの村でしっかりと誇りの持てる教育をしたい。両村でしっかりと基礎を作り、学校統合をする場合にはすぐ学校統合できるように進めたい。今すぐにどうするということではなく、それぞれの村でしっかりと教育方針を出していきたい。

麻績村の将来を担う子どもたちが「心豊かに遅く」、明るくのびのびと過ごし、自然豊かな麻績村の伝統文化を受け継ぎ、郷土を思いやるような育成に向けて進んでいきたい。子どもたちを中心とした教育行政を推進できればと思っている。

皆様の色々な忌憚のないご意見等をいただき、教育大綱、振興計画等にしっかりと組み込んでいきたい。

○加瀬教育長

ありがとうございました。現教育大綱を見るとシンプルながら全てを網羅していると感じた。現教育大綱について、ICT 教育・危機管理・学校間連携などについて記載が必要になってくると思う。

村長にお話しいただいた中で数点ポイントを挙げていただいた。

- ①生きる力をつける
- ②自ら学ぶ姿勢、自学自習
- ③協働（地域、家庭、学校間等様々な部分）
- ④小規模のメリットを活かす・他校との連携

これらがキーワードになると思う。

村長のお話をお伺いして、教育委員の皆様方から感想等を含め、教育大綱に盛り込んでいきたい内容や、教育委員会として取り組んでいきたいことや思いをお話しいただきたい。それにあたり前段までのご質問等はございますか。

○市ノ瀬職務代理

学校統合について、筑北村と麻績村で協議する会議は終わっているということで良いか。

○塚原村長

一旦は両村それぞれでやるということで打ち切られている。一番の課題は学校の位置となる。会議自体は終わっている。

○小松委員

学校統合を希望されている方の要望として、「学校統合の必要性についての意識調査」を

行う必要性を訴えられている。ある程度、村民に対して情報提供は必要ではないか。

○塚原村長

意識調査を行えば、表面的なことだけで賛成・反対となるため、危険な部分もある。これからどうやって皆様方に伝えていくかは課題である。学校統合したほうが良いとなった場合、児童生徒一人ひとりに接する先生の時間は少なくなるので、今のようなきめ細かな教育は難しくなる。これについては慎重に行うことが大切だと思う。

○加瀬教育長

実際に発信していくことは重要だと思う。校長には伝えていたが、昨日小中学校の先生方に初めて学校統合についての話をしたが、今後保護者等に向けて教育長から話をする機会が必要だと思った。人数だけのことを見ていたと思うが、実際問題教育の質が重要。先生が児童生徒一人ひとりに長時間接することができるほうが良い。先生方の人数は多いほうが良いということであれば、学校としては2校だが連携して1校2クラスというように、先生が倍居るといふことのほうが重要だと思う。教育長として現状を話していくことは大切だと思う。

4. 意見交換

○加瀬教育長

委員の方からお願いします。

○小松委員

村長、教育長のおっしゃる通りだと感じた。変化する社会情勢の中で、ICTを利用して情報を得たり発信したりできる便利さの反面、人として生きていく上で、自然豊かな麻績村なので、自然と触れ、地域の人と触れる中で郷土愛を育ててほしい。そういう原体験を積んだ上でICTを活用してほしい。日本だけでなく世界の視点で考えて生きていかなければならない子どもたちを育てるには、原体験を積むことが重要だと思う。自己実現とともに、人に伝える力をつけていくことも必要。

個々を大切にすることで麻績村は大分環境が整っていると思うが、発達障がい等の障がいがある子に特化されていると思う。今はLGBTQ+など、発達障がいあるなしや男女問わず、本当に個々が多様化しているので、そういう教育も加える必要があると思う。

○宮下委員

小学校3人の子どもを持つ中で、保育園と小学校の情報はある程度キャッチできている。ここ数年で新型コロナウイルス感染症等により色々な変化があるが、ICTを利用した学習を見ているので、学びの変化や子どもたちの活動している様子は伺っている。

先週みどりの日が雨で中止になったが、このような村を知る行事はあるので、今後も大切にしてもらいたい。麻績村の魅力を小さい頃から感じていけば、一度は村外に出てもい

ずれは村に戻ってきて、村を担っていく人材になれば村興しに繋がっていくと思うので、故郷を大事にする意識を持ってもらうことが大切。社会教育が現在はやや不足していると感じるので、自然豊かな中で感性を育み、生きる力を身につけて、学力の面でも教育の質を大事にして細やかに見てほしいと思う。

○小山委員

村のほうでも子育て世代を増やす施策をしているが、全国的な流れのなかで飛躍的なことは期待できない。ICT 教育を活用し世界を見ることも大切であるが、人と人を繋げる活動、例えば短期留学、姉妹校との交流等を行うことにより外を見ることも必要だと思う。

子どもたちに故郷を大事にする意識を持ってもらうことは大切だが、子どもたちの親世代の意識についての働きかけも必要。村に縛り付けるという訳ではないが、村に戻ってくるという選択肢を増やすような方法が必要だと思う。今の親世代が、村に居て自分たちが村が良いと思えるような生涯スポーツや社会コミュニティ等の充実も必要だと思う。

学校統合については、現状ではすぐに統合ということは難しいと感じる。やるとすれば小中一貫の義務教育学校という選択肢のほうが近いかなとも思う。学校統合となれば、どの学校に統合するかではなく違った切り口が必要かと思う。

○市ノ瀬職務代理

学校統合は、今できるという状況ではないと思う。それぞれの村で独自に進め始めている。普段から村同士・教育委員会同士の連携、話し合いができればいいと思う。それがスムーズな学校連携に繋がってくると思う。

今の子どもたちについて、心配なのは全国学力・学習状況調査の結果に表れる「自己肯定感の低さ」である。自信を持って高校や社会に出ていけるような子どもたちにするにはどうしていくかが課題である。子どもたちに色々な経験・体験を、村内に限らず幅広く積ませてあげられれば良いと思う。

子育て相談については、現在子育て支援コーディネーターと保健師との連携等が上手くいっていない実感がある。本当は「子育て支援センター」のようなものがあればそこで一括してできるかと思うが、そこまで大それたものでなくとも、「子育て支援チーム」という子育て支援コーディネーター、保健師、保育園関係の方等が所属した組織を作り、一部屋設け電話を設置し、窓口を一本化する体制をとってほしい。

○加瀬教育長

ありがとうございました。大事な点をいくつかご指摘いただいた中で、すぐにできることとしては、両村の教育委員会同士の連携はすぐに進めていく。現時点で次長レベルで連携をしているが、教育委員会全体として連携していけるよう対応したい。今それぞれご指摘いただいたことを今後活かしていけるよう、また次回の教育委員会で少しずつ、テーマを絞りながら話をしていきたいと思う。

○塚原村長

今色々と切実なお話や、将来に向かって幅の広がるようなお話もいただいた。いずれにしても子どもたちを主体とし、子どもたちを育てる保護者が不安にならないような体制整備が必要だと感じた。教育委員会と住民課保健師等で連携する中で職務分担をしているが、他の職務もありなかなか集中できない部分もある。今後は集中できるようチームのようなものを作っていきたい。

他校との交流を行っていくことは大切だと思う。長野県の中で「おみっこ元気クラブ」のような組織は10幾つかあるが、その子どもたちが長野の教育学部に集まって一緒に活動することができれば、子どもたちとしては色々な面で学び吸収できることがあると思う。いつもと違う人々と交流することにより、自分の主張をしつつも相手の話をしっかり聞かなければならないことを学ぶことができるので重要だと思う。

麻績には姉妹都市がないので姉妹都市の姉妹校との交流は出来ないが、同じような地域の学校もあると思うので、そんな交流方法も考えていきたい。

自然豊かで伝統文化、史跡のある麻績村でしっかり思い出を作っただき、一回外に出ても帰ってきたいと思える村を作っていきたい。

現在7名いる地域おこし協力隊には活躍していただいている。協力隊卒業後、自主体で就農したり喫茶店開店したりしている方もいる。今来ている方々は非常に高い意識をもってきている人が多く、農業振興によく取り組んでいただいている。そんな協力隊との交流も重要と感じる。

学校統合については、小中一貫校について課題がある。今後9年間どういう教育をするか、それぞれの学校では研究されていると思うが、村でも今後研究していかなければならないと思う。いずれにしても、複数校と学校統合したとしても小規模校であるので、統合しても小規模校のメリットを活かしてしっかりとした教育育成に携わらなければならないと思う。今後益々皆様方のご指導、ご意見をいただき取り入れていきたい。

5. その他

(なし)

6. 閉会

○加瀬教育長

長時間にわたりご協議いただきましてありがとうございました。今後の教育委員会に活かしながら進めていきたいと思っております。以上で麻績村総合教育会議を閉じさせていただきます。

(会議閉会 午前11時00分)

